

第1学年 算数科学習指導案

1 単元名 3つのかずで たしたり ひいたり (3つのかずのけいさん)

2 単元について

(1) 計算の場面の拡張

本単元では「たしざん(1)」「ひきざん(1)」においての2つの数の計算から発展して、 $4 + 3 + 2$ のような3つの数の計算について学習する。3つの数についても2つの数の場合と同様に加法や減法を用いて計算ができるようにすることがねらいである。そして操作や計算は $4 + 3 = 7$ 、 $7 + 2 = 9$ というように途中では2段階になるが、最終的には1つの式にかくことができるということを押さえることが大切である。

(2) お話作りを通して

児童は2つの数のたし算ひき算の意味が分かり、その計算も正確にできるようになってきている。そして、たし算ひき算のお話の紙芝居作りにも積極的に取り組み、式に合う具体的な場面を作り出すことができる児童も増えてきている。しかし、式の持つ意味を十分とらえることができない児童も見られる。また、3つの数の計算になると式の表す場面の様子をとらえることが難しくなることが予想される。さらに、その計算自体につまずきが生じたり、計算の習熟につれて式の持つ意味を十分に考えずにただ計算できればよいという意識が生まれたりしないかと危惧している。

(3) 式は算数の言葉

式は数量の事柄や関係を簡潔に表す「算数の言葉」であるという見方を大切にし、式の持つよさを十分に感じ取らせるために、式からお話を作る学習の場を重視していきたい。式を見てそれに合う具体的な場面を作り出すこと、すなわち「式をよむ」ことを通して、式についての理解を深めていくことができるからである。また、これから先の学習で数の持つ意味や場面の様子を考えて式を立てていこうとする態度につながっていくので、今の時期に学習することは重要である。

本単元では、3つの数の計算も1つの式で表すことができることを学習したあと、第2時に場面の順序を入れ替えたお話(+ - と - +)とそれを表す2つの式を比べたり、式に合うお話作りを通して式から具体場面を想像したりする。この学習活動により、式表示の意味理解を深めることになり、第3時で扱う- -の場面理解も容易となり、計算も場面の展開に合わせて順順にひくということがとらえやすくなると考える。

指導にあたっては、具体的な場面を表す絵を時系列に沿って物語のように表示し、数量が増減する場面をとらえやすくしたい。そして、お話をしながらブロックを操作したり、図に表したりして、3つの数の場合も、2つの数と同様に増加や求残の計算をしていることを理解させるとともに、ブロック操作や図に表したことをもとに交流することで式の持つ意味を豊かにとらえさせたい。

なお、本学級は複数担任であるが児童の発達段階を考慮し、算数科の指導にあたってはT₁が主になって一斉指導を行い、T₂は個別指導を中心に行うという形をとっている。

3 単元の目標

3つの数をたしたり、ひいたりする計算を1つの式に表すことのよさを知り、進んで用いようすることができる。(関心・意欲・態度)

3つの数をたしたり、ひいたりする計算を1つの式に表すという考え方ができる。また、式から具体的な場面を想像し、式に合ったお話作りができる。(数学的な考え方)

3つの数をたしたり、ひいたりする計算を1つの式に表すことができ、計算することができる。(表現・処理)

3つの数をたしたり、ひいたりする計算の意味を知る。(知識・理解)